しまだい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS 1

バングラデシュの若手研究者6名が来日
養液栽培についての研修を実施

11月21日～12月1日まで、2023年度JST日本・アジア青少年サイエンス交流事業でバングラデシュから研究者6名が来日し、養液栽培研修を行いました。この研修は、土壌を使用しない養液栽培技術を習得し、バングラデシュの安全な食料生産と貧困農家の所得向上につなげてもらうことを目的としています。

研修期間前半は、島根県農業技術センターや養液栽培イチゴの生産者(ひだまり農園)などを訪問し、施設内を見学しながら現地の方から説明を受けました。

研修後半は、本庄総合農場で培養液の作成や溶液栽培などの実習を行いました。研修終了後には、研修成果をどのようにバングラデシュの農業に活かしていくかなどについて総合討論を行いました。参加者からは多くの感謝と帰国後、この研修で得た知見をバングラデシュの農業に活かせるように努力したいという言葉がありました。今後、母国でどのように養液栽培技術を発展させていくのか、彼らの活躍を願いつつ、本プログラムを修了しました。

TOPICS 2

内閣府地方創生推進事務局参事官、他2名が訪問
エスチュアリー研究センターを視察

12月20日、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局・内閣府地方創生推進事務局の塩田剛志参事官、守隨吉将参事官補佐、及び同事務局金子朋世氏がエスチュアリー研究センターを視察されました。齋藤文紀センター長がセンターの概要や沿革などを説明し、研究の一例として堆積物の採取機器や年縞堆積物を用いた古環境研究を、実際の堆積物を示しながら紹介しました。専門的な質問もあり、強く興味を持っていただけた様子でした。

TOPICS 3

島根大学の教育方法や技術向上にむけて
優良教育実践表彰の表彰式を実施

12月27日、令和5年度島根大学優良教育実践表彰の表彰式を行いました。今年度は11件の応募があり、審査会の結果、3件の活動が表彰されました。表彰式では、服部学長から「差別化によって、大学をブランド化できるかがポイント。これからフロントランナーとして島根大学を牽引してほしい」との祝福の言葉とともに表彰状が贈られました。今後の受賞者の更なる活躍、本学教員の教育方法及び教育技術の向上に資することが期待されます。

TOPICS 4

石川県能登半島地震の災害派遣医療に参加
DMAT(1次隊)が帰院

1月1日に発生した石川県能登半島地震について、被災地で医療活動を行うために、島根大学医学部附属病院DMAT1次隊(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)が1月7日に島根県から出発、1月8日から活動を行い、1月11日夕刻に帰院しました。DMAT1次隊は、参集拠点本部の能登総合病院へ到着した後活動を行い、本院からのDMAT2次隊が到着したことに伴い、引継ぎを終え、帰院したものです。

災害派遣医療に参加した隊員からは、「石川県七尾市の中核病院に開設された『能登医療圏活動拠点本部』において、主に物資関係の本部活動を担当させていただきました。被災者の皆さまや、現地で活動している医療関係者の皆さまの支えになれたかは分かりませんが、与えられたミッションを確実に遂行して帰ってまいりました」、「他のDMAT隊が避難所支援を行う際、インフルエンザ検査キットなどが必要となる事例があり、そのような場合は、DMAT隊が持参した物資を調達・調整し、その避難所支援の隊へ提供するなどの調整業務を行いました」など、現地で体験したことについての感想が寄せられました。

引き続き、島根大学医学部附属病院DMATは、被災された現地の方が必要とする災害医療支援を続けて参ります。

TOPICS 5

研修を通じて笑顔や交流が溢れる
留学生の大山スキー研修を実施

2月6日に鳥取県の大山豪円山スキー場にて、留学生のスキー研修を実施しました。留学生23名と日本人学生サポーター2名の計25名が参加し、4つのグループに分かれてスキーを楽しみました。インストラクターの的確な指導により、初めはスキー板の扱いにも四苦八苦していた学生も、研修終了時には豪円山のゲレンデをスイスイと滑れるようになっていました。参加者の中には雪の降らない国の留学生も数名おり、雪景色に笑顔が弾けていました。

TOPICS 6

授業の一環で大学業務のDXに取り組む
学生が大学業務システムを開発

自然科学研究科の授業において、大学院生・学部4年生33名が大学の事務業務を題材に、DXに取り組みました。授業では5つのチームに分かれて、事務職員への聞き取りを踏まえてシステムを作成し、授業最終回に各チーム特色あるシステムのプレゼンテーションを行いました。最も評価の高かったチームのシステムが来年度から学生支援課で運用されます。職員の事務業務削減に留まらず、学生サービスの向上が見込まれます。

読者の声 Voice

広報しまだい vol.56に寄せられた声をお届けします。

地域の大学が何をしているのか、このような広報はとても重要だと思っています。これからも住民目線で発行されるよう期待しています。
(島根県出雲市・70代男性)

社会で活躍する卒業生、たくさん紹介してほしいですね！
(島根県浜田市・70代女性)

学部の新設喜ばしいことです。島根大学から、島根の、日本の発展に連なればうれしいことですね。
(島根県出雲市・60代女性)

島大を出て地元に残り、どれだけ島根に貢献してくれるかが大事なので、そういう学生が一人でも増えることを希望します。
(島根県松江市・90代女性)

この島根で学ぶ学生さん、多方面で頑張ってください(先生方も！)。
(島根県浜田市・50代女性)